

第 286 回研究報告会 (10 月 28 日)

XXI IAHR World Congress (University of Erfurt) に参加して
堀内みどり

8 月 23 日～29 日、ドイツのエアフルト大学で開催された第 21 回世界宗教学宗教史会議での様子を報告した。

世界宗教会議は、近年では 5 年ごとに開催され、2010 年はカナダのトロント大学、2005 年は東京で開催された。1965 年にドイツのマールブルク大学で開催された第 10 回大会では、中山正善 2 代真柱が「天理教教義における言語的展開の諸形態」と題して発表されている。

エアフルトは、マックス・ウェーバーが生まれた土地であり、宗教改革を行ったマルティン・ルターは、1501 年から 1505 年までエアフルト大学で哲学を学び、後に修道士となった。堀内は学会ツアーで、ルターが通った道、学生時代に住んだ寄宿舎、得度した修道院とその教会などを見学した。

会議には、天理大学から、澤井義次、岡田正彦、ホアン・ロペス、澤井治郎、堀内が参加・発表した。今大会には約 1,400 人が集い、日本からは 90 余名が参加した。大会テーマは「Dynamics of Religion: Past and Present」で、これに 4 つの分野「社会における宗教集団：順応と変化」「実践と対話：革新と伝統」「個人：信仰心、スピリチュアリティ、および個人化」「方法論：表現と解釈」が示され、研究発表は、4～5 名で構成されたパネルの中で行われた。

教団付置研究所懇話会・第 14 回年次大会

深谷忠一

教団付置研究所懇話会・第 14 回年次大会が、10 月 20 日に東京都大田区池上の日蓮宗宗務院で開催され、天理やまと文化会議議長の白木原嘉彦、同事務局長の木村成人両氏と共に参加した。

教団付置研究所懇話会は、規模の大小、教団との関係、純粋アカデミズムか具体的な強化方法の検討かなど、各研究所の設立主旨・内容の違いをこえて、各々が現代の諸問題にどのような関心を持ち、何をしているのか、それぞれの教義・世界観を基としながら、現代社会に開かれた教団たらしめるべくどのような努力をしているのか等の事柄に関して相互に情報を交換することにより、それぞれの立場を尊重しつつ協力できる可能性を探り、教団の差をこえて、日本社会に「真の宗教性の復権」をもたらすことに資することを目的として、平成 14 年 9 月に、大本教学研鑽所、孝道教団国際仏教交流センター、金光教教学研究所、浄土宗総合研究所、浄土真宗教学研究所、神社本庁教学研究所、真宗大谷派教学研究所、曹洞宗総合研究センター、天台宗総合研究センター、辨天宗教研習室、NCC (キリスト教協議会) 宗教研究所、立正佼成会中央学術研究所と当おやさと研究所を設立準備参加団体として発足したもので、現在は、会員として 19 の研究所、オブザーバーとして 8 研究所が参加している (天理大学附属であり教団付置ではない当研究所は、オブザーバーとして参加)。

今年度の大会テーマは「戦後 70 年と教団の歩み」というもので、神社本庁総合研究所研究祭務課長・浅山雅司氏の「戦後 70 年と神社本庁の歩み」、智山伝法院嘱託研究員・小笠原弘道氏の「総本山智積院を中心とした教団の動向」、中山身語正宗教学研究所長河野乗慶氏の「身語正教学の構築をたどって」という三つの発表がなされた。また、続いての総会では、「自死問題研究部会」と「生命倫理研究部会」の活動報告と、「宗教と法律研究部会」の新設が発表された後、次期当番事務局・実行委員研究所の選出がなされた。

今回の年次大会での発表は、発表者の教団・宗派がいかなる存在・組織かという説明と来歴の紹介がほとんどで、「戦後 70 年と教団の歩み」という大会テーマから期待した“戦後 70 年の教団の歩みの総括”という内容のものは少なかったが、それぞれの教団・宗派の成り立ち・現状についての理解を深める上には有意義なものであった。

また、昼食時を利用しての池上本門寺の諸殿拝観の時間には、五重塔の特別開門などもなされて参加者の見聞を広めることにも資され、大会後には品川のホテルに場を移して交流会が開催されて、各教団の研究所員間の親睦の進展・情報交換が行われた。

なお、次年度の大会は、佐賀県にある中山身語正宗の教学研究所において開催される予定である。

アフリカ特別講演会開催

森 洋明

11 月 4 日 (水)、天理大学国際学部、天理医療大学医療学部、おやさと研究所の共催で、永遠瑠 (とわり) マリールイズ氏を招き、「絶望から希望へ：アフリカ・ルワンダ復興のプロセス」と題したアフリカに関する特別講演が行われた。

同氏はルワンダ共和国出身で、94 年起きたルワンダにおける大虐殺を機に来日し、以来 20 年以上福島に在住しつつ「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、祖国の教育支援を行っている。今回の講演では、3 カ月で 80 万人以上もの犠牲者を出した大虐殺から奇跡的な復興を遂げている社会のあり方と、支援活動を行っている学校施設の様子を紹介した。



『グローバル天理』
合本のご案内

2010 年から 2014 年に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各 1 年分 (12 号分) を 1 冊にまとめ、簡易製本したものです (頒価は 200 円)。

合本はご注文を受けて製本しておりますので、研究所事務室にお越しの際は、必ず事前に電話、FAX、もしくは E メールでご連絡ください。なお、郵送による頒布はできませんので、ご了解ください。